

下関市立学校適正規模・適正配置基本計画策定に伴う地元説明会

1. 場 所：滝部公民館
2. 日 時：令和7年7月31日 19:00~20:30
3. 参加人数：13名（教育委員会を除く）
4. 主な質疑

■参加者

小中一貫はこれからどんな進め方を想定しているか。具体的には決まっていないのか。

□教育委員会

今回が4期計画で、本年から5年間になっている。3期計画でも同じ組み合わせで示している。これからの進め方は、保護者と地域で組み合わせのパターンについて、意見交換及び協議をして、統合すべきかどうかの確認をする。学校位置の豊北中学校は教科教室型の校舎で、ホームベースと言われ、クラスが集まる部屋が小さいという特徴がある。また、中学校校舎に小学生が入って使うとなるとそれに合わせた改修が多く出てくると思っている。もし、施設一体型の小中一貫校で開校することになると、大規模な改修が必要となるので、その改修工事の事業を立ち上げないといけない。それには期間もかかってくるため、今回は5年計画で一旦そこを目指すか、地域との合意と建設事業の進み具合によって、いつごろ開校を目指すか決まってくると思う。今の時点でいつかというのは、この関係で言えないのは申し訳ないが、進め方としてはそういった形で考えている。

■参加者

小学生と中学生では、基本的に目線が違う。現状を見ると、大学のキャンパス方式というか、分離型にならざるをえないのではないか。新築、または改修という話になると、多額の経費もかかるし年数もかかる。

中学校には行っていないが小学校は覗いたことがあるが、校舎は廊下を含めて、こういう問題もあるから随分傷んでいる。そういう議論をどんどん進めていって、可能な限り早く学校を作ってほしいと思う。トイレ一つとっても、中学

校と小学校とは違う。階段、廊下、教室、様々な問題があると思うので、分離型になるのではないかと考える。

それから、学校運営協議会は、当然地域のいろんな方が入ると思う。自分は滝部地区の18ある自治会の世話をしている。通常の運営協議会はよいが、統合など大事な話であれば、自治会の関係者も加えるといいと思う。

それから、参考資料の6番目にある学校跡地の有効活用について話をしたい。豊北町の小学校が1校になって、中学校も一中、二中、三中、角島中もなくなって1校になった。町内には豊北だけではないと思うが、たくさん未利用の建物、土地がある。若干、収蔵という形で利用はされているが、ほとんど利用されていないに等しい。昨年10月に県庁に行って、山口県の部長と会う機会があって話をしたら、豊北町の出身ということを知った上で第1発目に言われたのは、角島小学校はどうかならないのか、あれだけの人があるのに活用する方法があるのではないのかという話であった。豊北町も角島大橋、道の駅もでき、いろいろな意味で、たくさん人が来るようになった。角島小学校のあたりはロケーションもいいし、グラウンドも相当広い、見晴らしもいい。ただ、現状の角島小学校の活用について、建築会社の社長に来てもらって、地元とも話をした機会があるが、学校の建物はある意味特殊な建物で、例えば旅館などそういう観光施設にするということは、新築以上に経費がかかるので、それはあまり考えられない。だから、もしやるのであれば、土地があれば、最初から大規模にしなくても、何らかの形で小規模でもスタートしたらよいのではないかという話もあった。もう角島小学校は、条件を付ける必要はあるが、外部にも売り出すことを考えるべきだと思う。解体条件付きで売り出すということもある。ただ、企業については、高さや色、そこで何をするのか、用途指定は必要である。あれだけの土地を寝かせておくのは大変もったいない。新しい形で地元が潤うような方策を早急に進めていただきたい。

また、意見があるので、後日意見を送ろうと思うがよろしいか。

□教育委員会

提案としては、中学校を活用した施設一体型の小中一貫校で、この位置が望ましいと思っている。このあたりの意見については、地域、保護者の意見交換、協議をしながら、どういう形にすべきか議論を深めていければと思う。豊北地域においては、小学校1つ、中学校1つになっている。一小一中の小中連携は、今実際できていて、離れてはいるが9年間を見通した小中一貫の教育のビジョンを持って取り組んでいる。それを施設一体型ですという形がどうなのかというのは、保護者と意見を交わしたいと思っている。

それから、学校運営協議会、自治会ということだったが、もちろん合意形成と

いうところで言うと、PTAと地域というふうに思っている。まずは保護者の意見を聞いた上で、それをもって地域に話をさせていただく手順がよいと思っている。教育委員会が話を進めていく上で、学校運営協議会、自治会、いずれも学校に非常に関係の深い関係者なので、その方々と意見を交わすことがないまま話が進むということは考えていない。

それから跡地については、豊北は小学校が8校あり、中学校も4校あったがそれが1校ということになっている。遊休地になっている跡地がたくさんあるような状況である。それに関しては、活用を望んでいるが、現実的にはそれがうまくいっていないのは事実だと思っている。先ほど例示があった角島小学校について、それを活用ということだが、実際廃校跡地については、処分をするという意思表示は市でしているので、これを購入したい意思がある人は申し出てもらう形になっている。実際、なかなか成し遂げられないが、過去、それから現在でも、学校跡地を利用したいという外部からのニーズはある。もろもろの条件を踏まえた上だが、現時点ではそれが成し遂げしていない。ニーズはあるのでそういった引き合いの話を聞きながら、市としても民間で活用していただくのが一番だと思っているので、その方向で考えていきたいと思っているところ。

それから意見については、説明会は豊北地区が最後となっている。パブリックコメントも今月1ヶ月ということをやっているが、取りまとめに入る過程で、遅れてきた意見についてもなるべく対応していきたいと思う。

■参加者

今説明があったが、小中一貫校については、子供のことについて全く言っていない。小中一貫教育校にする時の子供たちの影響に関しては全く言っていない。これについてはどういふことがあるのか。なぜ言わなかったのか。

次、今ここに、実際小学校に通っている親がいない。これは広報の仕方がどうだったのか。

それから、適正規模というので、小中一貫教育校だから大きさの問題ではないと思う。大きな学校を作っていこうという目的だと思うが、13年前に宇賀小学校で受けたことを話す。1・2年生が、子供が転校したことによって4月に単学級から複式学級になった。そのときに教育委員会が来て親に言ったことがある。小さな規模の複式になったが、子供たちには十分な教育をしますと言った。そういうことを言っているのに、規模を大きくするというこの矛盾点はどう考えるのか。

それから、子供のことを言わなかったということは、小中一貫教育校を作るのは、ただ単に管理費を減らすためなのか。そのために、小中一貫教育校を作っていくのか。教員の給料は県から出ていて、県から少なくするように言われたのか、

そこを答えて欲しい。

豊北町では学校が少なくなった。豊浦町では、豊北は学校が少なくなって寂れているという話が出たとのこと。学校が少なくなって、豊北町の状態がどうなったのか検証をしたのか。

それから、小中一貫教育校にして学校が減る。豊北町全体で、一生懸命に盛り上げようとしているが、それとの関係、教育委員会がやっていることは逆行しているのではないか。学校を1つにすることによって、豊北町の状態がどうなるのかを考えているのか。

それから、基本計画の中で、子供は地域が育てるということを書いているが、子供が見えない状態になってくる。小学校が1つになり、中学校の方に行ってしまう。教育委員会が言っている、地域が子供を育てるということに反する状態になるのではないか。小学校を統合した時点でもそれに対して反してしまった。それについてはどう考えているのか。

それから、今日までのパブコメのやり方と、この説明会は関係ないというのは教育委員会の理屈ではないか。それは通らない。説明を聞いたあとに意見を出すのが普通である。なぜパブコメの締め切り日を今日にしたのか。

□教育委員会

小中一貫の説明に、子供のことを入れていないということについて、今日配付した資料で10分での説明ということで、期待される説明ができていなかったと言われればその通りかもしれない。小中一貫教育については、小学校から中学校への接続の課題がスムーズにいけるといっているところ。小学校の良さ、中学校の良さをそれぞれで共有できる。一方で、小学生と中学生が同居する難しさもある。中学生については勉強に集中しなければいけないところで、逆に小学生はにぎやかというところが相反する。その同居は難しいというところもあろうかと思う。中学生は思春期という難しい世代になってくるという課題もあるが、小中一貫教育は、最初に言ったメリットを生かしていくのが本市の取組である。

それから、参加者が少ない指摘の部分については、それは実際に人数として多くないので、事実だろうとは思っている。広報については、市報と学校保護者向けのメール、それから、説明会を実施する地域においては、自治会の回覧というやり方でやっている。これは地域差はあると思うが、全体で各会場で30名程度参加いただいているような状況。それに比べたら、本日はちょっと少なかった。あと、時間帯については、本日19時からにしているが、いつ開催するかは悩むところであった。休日だったら集まるのか、平日の夜だったら集まるのか、それぞれあろうかと思う。休日は家族で予定があるので簡単には集まらない。そういった中で悩みながらやっている。

それから、大きな学校にするのかという話で、小規模校の事例として昔の複式学級の話があった。教育委員会としては、学校を大きくしたいと思ってるわけではない。学校の規模に関しては、大き過ぎず、小さ過ぎず、というところを適正規模としている。小規模校については適正規模を確保するために統合し、逆に24学級以上あるような大きい学校については課題は顕著になっている。そういう学校が出てきた場合には、校区の見直しをすとか、新たに学校を設置すとかという検討をしなければならない。ただ、少子化に向けて大規模校というのが出てきていないので、そちらが焦点になっていない。単に大きい学校を作りたいというわけではない。複式学級の課題は重要だと思っており、そこを解消したいと思っている。複式学級の学校運営、学級運営、授業はなかなか難しいところがあると思っている。一方で、複式学級の良さも承知しており、それ自体を否定するものではない。小規模になりすぎて、極端に言うと1学年1人だったりゼロになったら、その学年がなくなる。1人になったら学級の授業はどうなのか。そういったところを解消したいというのが、今回の取組である。

それから、小中一貫教育校が管理費の効率化のためかということについては、教育委員会が目的としているのは、学校にかかる経費を縮減したいという思いでやっているわけではないし、今までそういう説明をしたことはない。効果とすれば、単純に学校の数、学校の延床面積が減れば管理費は下がるという影響はあると思うが、そこを狙っているわけではない。小中一貫教育校については、施設を一体型で使うといっても、学校自体は小学校と中学校がある。一般的には小中一貫教育の中には、小学校の校長先生、中学校の校長先生がいて、施設を一体型に使ってその効果を引き出すというのが施設一体型の特徴。

それから、豊北町の学校統合が進んでいって、地域が寂れていくという話があった。実際、子育て世代が住まいを考えると、学校が近くにあるかは、選択基準の大きいものになろうかと思う。ただ、理由がそれだけではないと思う。学校が統合されることによって、人口の定住に対し、影響がないとは言わないが、それがすべてでもないと思っている。いろいろな経済状況、学校だけが生活ではないので、もろもろの条件、環境が影響して人口減少が進んでいるものだと思っている。それに対してどういう施策をすかというのは、学校だけの話ではなく、産業や地域振興をやらなければならないということで、現在、市ではそこを重要政策としてやってる。

子供を地域で育てるということに関して反するのではないかという話については、これは先ほどと多少かぶるところもあるが、これも影響として、統合によって地元の地域から学校がなくなるということで、活動する拠点が弱くなったということも影響としてはあると思っている。ただ、今、日本中が人口減少になっている。特に、地方はずっと人口減少になっている。学校については、教育環

境ということで適正規模・適正配置を進めているが、一方で、学校ではない部分に関しても、人口が減少すれば、いろいろなことができない、買い物も不自由になってしまうのも事実だと思う。人の集まりもなかなか集まりにくいところがある。これは学校も適正規模という取組をやっているが、地域の活動も今まで通りの活動というのは環境としてできなくなってきたので、今までと違った取組をやっていく中で、子供を育てるということも新たなチャレンジとしてやらねばならないのではないかと思う。

それから、パブリックコメントについては、今月1ヶ月ということを実施している。パブリックコメントは、全市民に対して同じ条件で1ヶ月かけてさせていただく。説明会については、組み合わせのパターンについて、5年前の会場も参考にして、今回10ヶ所で実施した。ただ、こちらの会場については、パブリックコメントの最終日という設定になったことに関しては事実である。この説明を聞いた上でのパブリックコメントを出すのではないかということに関しては、意見として受けとめたい。パブリックコメントも今日までということでは区切っているが、取りまとめの過程で届いたものについては、極力、対応していきたい。

1点修正。教員配置は県教育委員会が行うが、施設一体型の小中一貫教育校においては、現在の運用としては、原則として校長は1名。規模にもよるが小学校中学校それぞれ教頭1名、或いは小規模であれば、教頭が1名のところもある。

■参加者

小学校と中学校の接続がどうかということ。中1ギャップといろいろ言われているが、中学校の先生に聞いたが、あまりないということだった。それをきちんと吸収できるような教育ができなければ、中学校の先生はやめたほうがよい。

もう1つは、そこに教員がたくさんいないということ自体、親がどういうふうな願いを持って小中一貫教育校を見ているかということ。教育委員会が目指している学校像と、親が望んでいる学校像が、同じか乖離しているか、その辺のことよく考えて欲しい。親は学力をつけて欲しいとか、健やかな成長を願っている。そういうことに対して、教育委員会は小中一貫をすることによって応えることができるのかということに心配する。教員ではない行政マンだから、どうしてもその辺の視点が出てくるのではないかと思う。

それから保護者が来ないということもいろいろ言われたが、せめて小学校と中学校1人1通ずつの案内を出してもよかったのではないかと思う。

それから適正規模ということに対して、法的根拠があるのか。複式についても、解消と言ったが、決して複式が悪い教育ではない。自分は複式を8年やったが、

子供たちはその中で健やかな成長をした。学力は普通学級以上についてくる。決して解消するようなものではない。規模がどうであれ、きちんと子供を育てていくのが教育。大きな規模でなくては育てられない、そんな馬鹿な話ではない。

それから小中で校長が1人。小学校の文化と中学校の文化は違う。中学校の先生が話しても小学校1年生はわからない。これは実際に経験したこと。中学校の先生が校長で小学校に来た。中学校の先生の話は子供はぼやっとして聞いている。それは文化、程度及びレベルが違う。それから、検証をしないのは下関行政の特徴である。議員をやってよくわかった。やることはやるが、あとの検証は絶対にしない。もっと言えば、検証をしながら計画を立てることもしない。

最後に言いたいのは、子供のための学校。子供に対して聞いたのか。小中一貫校になることに対して、教員でない者が勝手に決めることではない。主人公は子供。子供の意見は聞かないのか。大人がやった施設の中で勝手に育てということなのか。子供たちの意見をきちんと聞いた中で、大人が審査して、子供の声をくみ取っていきながら、適切な、子供をきちんと育てる施設を作っていくのが親、行政、そして義務教育を施す教育委員会の仕事ではないか。

□教育委員会

小中一貫教育校について、様々な意見をいただいたと思う。その中で、小学校と中学校の文化が違うのは確かにその通りである。中学校と小学校なので、そもそも授業の時間も時間割も全く違うし、朝活動、放課後の活動、部活動等もあるので、そもそも学校のスタイルが違う。それが1つの学校になることで、小学校と中学校の教員がより密に話をしたり、打ち合わせをしたりすることができるので、そのあたりの文化の違いを、お互いの良さとして認め合うことができるというのが小中一貫の良さの一つになると思う。文化の違いもあるが、小学校と中学校の良さというのがそれぞれあるので、それを中学校の教員と小学校の教員が接する中で、その良さをそれぞれが感じることができるのではないかと。もちろんデメリットもあるが、メリットを大事にして、学校づくりをしていくことが大事ではないかと考えて計画している。

周知の部分に関して、1枚ずつ保護者に配付すればという話について、学校を通じてきらめきネットを活用して電子メールで送付し案内をしているので、効果的には同じことをやっていると思う。

適正規模の法的な根拠については、法に書いてあるわけではないが、国でも適正規模・適正配置の取組は必要だという立場で、各地方自治体に対して手引きを出している。その中で、考え方としては学級数の適正規模は12学級から18学級ということを示している。それから、統合することによって一旦学校規模が大きくなることもありえるので、24学級までは許容範囲だという見解を示してい

るところから、本市の適正規模・適正配置基本計画においては、1つの学校の適正規模については12学級から24学級として基準を作っている。

検証しないということに関しては、厳しい意見だと思っている。それは期待に応えられないのかもしれないが、市としては予算、施策をする際には、施策をする前の計画と、実施の振り返りという取組は行っている。それについてが十分でないということに関しては、反省してまた取り組んでいかないといけないと思う。

子供に小中一貫について聞いたかということについて、小中一貫教育校についてどう思っているかということは聞いていないが、今回この策定をする過程で、1学期に、適正規模・適正配置に関して子供たちに統廃合の概略は示していないが、学級の規模感や、通学に関して困っていることはないかというような内容のアンケートを実施した。

■参加者

自分は豊浦町から来た。豊浦町内で話し合いをしたときに、豊北町がどうなっているかというのを知りたかったので今日は来た。

それとは違うが、先ほど小中一貫のメリットの中で中1ギャップが見られるという話をしたが、自分は中学校で教えていたので、小学校と中学校でギャップがあるのは当たり前だし、それを乗り越えることも子供にとって必要ではないかと常々思っていた。ギャップがあるから行けないのであれば、一生の間ずっとどこにも行けないのではないかって思っていたので、実際どんなギャップがあるのか教えてほしい。

それから、豊北町の小学校を統合したことによるメリット。数的に子供の学力がこれだけ上がったとか、生きる力がこれだけ伸びたとか、それをずっと説明してきたわけなので、統廃合によってこういうメリットがあったというのが数的にも示されると思うのでぜひお願いしたい。

お金の話をさっきしていたが、下関市内の説明会にも参加した。文洋中と向洋中を建て替えて神田小学校のところにもっていきたい。それについての予算をかなり見込みがあるような話をしていたと思うが、残念ながら文洋も向洋も反対ということだったので、例えば中学校に小学校の校舎を建設するというのであれば、豊北が先に手を上げれば、そのお金が回ってくるのかも聞きたい。

先ほど学校があるかないかで住居を決めるわけではないと言ったが、豊浦町では神戸から長門市に引っ越してきた人が、学校がないということで結局豊浦町にきた。その人は、今年の2月に名古屋大学大学院の先生から少子化対策をどうしたらいいかという話について質問したときに、学校についての質問の中で、とにかく学校をなくしては駄目だという話をされたとのこと。それはすごく

あると思う。

欧米で言えば、先ほどから 24 学級とか 12 学級とかが適正規模と言っているが、日本の学級の生徒数は多すぎる。35 人ですらものすごく多い。20 人でも多くすごく難しいと言われているのを、それはそのまま適正規模というのはおかしいのではないか。それから欧米の学校では、小学校はプライマリースクールということで、ハイスクール中学校と高校は一緒の学校はあるけれど、プライマリースクールとハイスクールは一緒にしていないと思う。それは意味があって、小学校の教育は、中学校の先生がポッと行ってできるほど簡単なものでは絶対ないというのはすごく大きい。中学校と小学校が統合することにメリットがあるとは思えない。それでも絶対した方がよいのか。

□教育委員会

中 1 に上がるときのギャップについて、先ほども文化の違いという話を少し出したが、小学校は学級担任がほとんどすべての教科を指導する。中学校に上がると、学級担任はいるが、教科はそれぞれの教科の教員が教えることになる。まずそこについて、子供たちはちょっと戸惑いを感じるというところがある。それから、豊北町は今一つになっているので、中学校に上がったときに他の小学校と一緒にすることはないが、他の校区であれば、中学校に上がったときに違う小学校から上がってきた子と一緒に中学生になるということになる。大きな学校から来た子と、もしかしたら 1 人で中学校に入学する子もいるかもしれない。そういった中で、大きな集団の中に入れないというギャップもあろうかと思う。それから、教科の内容も急に難しくなるということがあるので、そういった学習面でのギャップ、そういったことが考えられると思う。先ほど意見の中に、今は中 1 ギャップはないと言ったが、下関市ではどの中学校区でも、小中一貫教育というのを進めてもらうように働きかけているところ。小中一貫教育校でなくても、小学校 3 校と中学校 1 校であっても、小中一貫教育、9 年間で目指す子供像を決めて、小学校と中学校の教員が一緒になって、小学生と中学生を小学校と中学校の教員が皆でみていこうという取組を進めているところ。そういった取組がある中で、中 1 ギャップというのも今は少しずつは減ってきてるのかなと思っている。

豊北で統合して数的なメリットがあったかどうかということについて、それに関しては学力が上がったかというような数的な直接的な因果関係の根拠というのがあるわけではない。

それから、文洋中学校と向洋中学校の統合に関して、新しい校舎にするという話についてだが、文洋中学校と向洋中学校で、学校位置を（豊北でない）神田小学校としている。文洋中学校と向洋中学校の統合については、老朽化があって建

て替えをどちらかにするかとなると、稼働中の中学校で建設事業をするのは、工事の上でも学校運営についても、非常に負担がかかるということと、この両中学校区の適正規模の取組の結果、神田小学校が今廃校になっているが、より中心に近い場所に学校用地があるということで、こちらの位置にしている。この校舎は非常に古くて手入れをしていないことから、新しく校舎を建てるというのが現実的な話ということで、事業化に向けて検討しているというような話をこの地域の説明会ではさせていただいた。

一方で、豊北中学校についても、工事は相当に必要なということについて、今後これをどうするかという話を考えていかないといけない。どちらが早いかにということに関しては、今の時点で答えられないが、文洋中と向洋中については、新たに校舎建設を検討している。

それから、地域で学校が大事ということで、住む上で非常に大事だということ。これについて、先ほど説明の中で、影響が大きいものがあると申し上げた。ただ、大きいが生活をどうするかということを考える中で、それだけが判断基準ではないと思っている。一番大きい決定打になる人もいると思うが、それがすべてではないと思っている。

それと欧米に比べてということに関しては、学説的には様々な考えがあると思うが、教育委員会としては、日本の中で地方教育行政として現実的に考えた場合に、国の法律と文科省の進める政策を前提に考えるというのが、まず基本的な考え方。そういう学説は学説としてあるのだと思うが、文科省の考えを基準に考えるのが適切だろうと思っている。

■参加者

豊浦町では4ヶ所で説明会があったが、その時にずっと複式学級がなくなることでこういう良いことがある、複式学級だけではこんなデメリットがあると言っていたが、そのすべてについて、市教委は何らデータを持っていないということだった。

それと、先ほどの文化が違うという話をしたときに、小学校と中学校も一緒になることでという話をした。複式学級を解消しなければいけない、複式学級で教えている先生は大変だ大変だとさんざん言っていたが、小学校と中学校が一緒になったときに、いろいろな今までやってきた行事にしてもすべて違うことを一緒にやっていくとなると、ものすごく話し合いをやって、教員の負担は複式学級を教えるよりも大きくなる可能性もある。そこの部分をきちんと考えていただきたい。

■参加者

この案の中で、豊北小中の場合の学校の位置は豊北中とあるが、これはどういう考えで豊北中としているのか。豊北中は高台にある。学校の図書室が図書館である。いずれにしても、いろいろな経緯で決まったと思うが、高台にあるので非常に不便である。位置を決めるのであれば、小学校の方が使いやすい。小学校はフラットで、中学校は高台にある。それから、当時の校長先生に縁があって話をしたことあるが、その時に校長先生が、目の前が山のため、豊北中は町が見えない。木もたくさん生えている。あれを何とかできないかという話をされたことがある。だから、学校位置は小学校の位置の方が、特に地域住民にとってはいいのではないか。小学校が豊北小学校1つになったということで、運動会やいろいろな学校行事の関係で、地域の関係も若干薄れてきているが、クラブ活動の地域移行ということも出ている。そのようなことを考えれば、やっぱり小学校と中学校というのは、歴史的に見ても地域とより関わりが深い部分。車があるからとか、通学バスは走らせるからいいじゃないかという考えもあるだろうが、保護者は中学校に車で連れて行っているということも聞いている。地域との関わりや、いろいろなことを考えると、小学校の位置の方がよりベターだと思うが、中学校の位置にしているのはどのような考えなのか教えていただきたい。

□教育委員会

中学校の位置で施設一体型の提案が、なぜそうなったかということについて、適正規模・適正配置の取組の中で、学校統合も含めて、いくつかある学校を統合するという組み合わせの中で、学校の位置は基本的には既存の学校施設を活用することを原則的に考えている。

それでいくと豊北中学校又は豊北小学校の位置となる。意見の中では、場所は豊北小学校が良いのではないかということ。地理的な要因で言うと、通学、学校に集まる活動では、位置的には豊北小学校の方が便利なんだと思う。一方で統合によって校舎を使うわけだが、豊北中の校舎は非常に新しい。一方で豊北小学校は老朽化という一面もある。これについて、既存の校舎を活用するということが豊北中についても改修が必要だが、逆のパターンを考えたときに、豊北小を改修して使うのか、建て替えるのか、ということ考えた場合に、やはり中学校の校舎を使うことの方が、将来に向けては合理的な考え方ではないかと思っている。丘の上にあるので通学に関してはデメリットはあると思う。それについても問題点として、保護者、地域の皆さんと話をする上で、どうすべきかということに関しては検討していかないといけないことだと思う。

■参加者

田耕小学校と滝部小学校は、平成 26 年度に統合した。その時に 1 年たって、田耕の子供たち、保護者にアンケートをとっている。子供たちは、人数が増え、新しい学校になって、行くのが楽しくなったというような答えだった。今、人数が減ったからどうかというのはあるが、当時の田耕小が複式になって、よそに転出した保護者がいた。田耕小の保護者が、1 人になってどうしても統合して欲しいという要望を受けて、当時の P T A 会長が統合に向けて努力したという実態がある。自分は早めに統合して欲しいと思う。

それから、令和 2 年度に豊北小になったが、当時の計画は分離型だったと思う。その時に 7 地区の会長、PTA 会長、学校長、自治会長が集まって、小中一貫の一体型を目指しましょうという話がされている。これに則って計画をしていると思っているので、できるのであればその方向で進めていただきたい。